

## 大阪市イノベーション促進評議会 令和3年度第1回 会議要旨

### 1 日時

令和3年8月20日（金曜日）15時48分～17時27分

### 2 場所

大阪イノベーションハブ（OIH）、及びWeb

### 3 出席者

北岡委員長、岡委員、フォーリー委員、山本委員

事務局（川村部長、馬越課長、田原課長代理、井上課長代理、瀧上課長代理ほか）

### 4 議題

#### <協議事項>

（1）令和2年度の主な取組みについて

（2）令和2年度の事業評価について

#### <報告事項>

（3）令和3年度の取組みについて

（4）「大阪の再生・成長に向けた新戦略」（2021～2025）について

### 5 会議要旨

議題（1）（2）に関する事務局の説明に対し、各委員より以下のとおり意見具申。

#### [主な発言内容]

- ・コロナ禍において国際イノベーション会議のオンライン開催が功を奏し、参加者数が大きく増えたことはすばらしい実績である。
- ・参加者アンケートの結果など期待に対する満足度といったような定性的な評価を見たい。
- ・個別項目の定量的な評価がどのようにエコシステムの構築に役立っているのかという視点が必要。
- ・関西のベンチャーがそれぞれ今どういうフェーズにあるのか、どういうことに今悩んでいるのか、スタートアップエコシステム拠点に何を求めているのかという分析があれば、事業の

方向性がより明確になるのではないか。

- ・関西全体のスタートアップの分析をすれば、海外から大阪に行ってみようというモチベーションに繋がると思うので、期待したい。
- ・例えばバイオにフォーカスするなど力を入れる産業分野を区切って発信していくと大阪、関西圏の魅力がより伝わりやすくなる。
- ・グローバルなエコシステムになるために、京阪神がつながり、一体としてエコシステム自体がどのくらいのポテンシャルがあるかを発信していくことは大切。グローバルの中で大阪を確立するようなポジショニングを考え、見える化すると良い。

議題（３）（４）に関する事務局の説明に対し、各委員より以下のとおり意見具申。

[主な発言内容]

- ・前々から感じていたことではあるが、改めて本当に多くのリソースをかけて事業に取り組まれていることに感心した。
- ・スタートアップの満足度や不満、ニーズ等を調査して俯瞰的に見ることで今後エコシステムが次のステージに進む重要なステップになるのではないか。関西でできることが明確化してくると、東京に行かなくても関西からグローバルへという展開も期待できると思う。
- ・資金調達においてもミドル、レイターは資金が潤沢だが、シードやシリーズAにいくまでが大変。東京に比べて、大阪にはシードやアーリー期のスタートアップに資金提供するVCがほとんどいない。
- ・大阪では大企業とのアライアンスもなかなか難しいと聞いている、スタートアップへ先行投資してくれるような大企業がもっと増えればいい。
- ・スタートアップが資金調達した面だけでなく、イグジットして、その資金がエコシステムで回っていく循環をつくるために、何らかの指標があってもいい。
- ・エコシステムが育っていくには、イグジットスタートアップの資金とメンタリングがどんどんその中に入っていく必要がある。スタートアップはメンターの実力と資金がどれぐらい入るかという点で成長速度がすごく変わってくる。スピード感を持って取り組まなければ、成功するスタートアップも成功しなくなる。
- ・最近増えてきているとは思うものの、関西のスタートアップの数はまだまだ少ないので、いろいろなスタートアップの裾野を広げるような取り組みが実現できるといい。スタートアップの発掘と発掘できるようなスタートアップの数を増やすということはセットで進め

るべき。

- 関西圏の大学発ベンチャー及び全てのスタートアップをとりまとめることができれば、海外の投資家や産業界もより近くにスタートアップを感じてもらえると思うので、裾野を広げるために大学も尽力していきたい。
- K P I のユニコーンを輩出するためには、5社の前に早く1社、大きいところをつくって、その資金と人材が回り始めると、そこから2社、3社、4社、5社というふうになっていくというフォーカスの仕方を考えてもいい。
- イノベーターの人材育成について、大阪内でのイノベーションを起こすためのイノベーターの人材育成と、グローバルで活躍できるようなスタートアップを育てるためのイノベーター育成とは異なる。グローバルイノベーターを育てていくために、点で考えるのではなく、どうやってグローバルな面を大阪からつくっていくかというようなイノベーターの育成の仕方という考え方もある。
- やはり一人の成功者の与える影響はすごく大きく、阪大でも、シリアルアントレプレナーが今数社出だしている。そういった意味で、アクセラレーションもターゲットを絞って1社を花開かせてしまうというのが重要なのだろうと思う。
- グローバルに育て上げるベンチャーのC X Oを育成するというのは、もうちょっと違う観点でやらなければいけない。大学と大阪市で一緒に進めていければいいと思う。
- 産業分野ごとのアクセラレータープログラムの計画はとても良い。どこに入れば自分が伸びるのか、どんなメンターがいてくれるのかというのはスタートアップにとってすごく大切なので、自分たちに合ったプログラムが得ることができると判断しやすい。
- 大阪がすごく良くなってきている、元気になってきているという声があり、機運が上がってきているので、万博に向けて一気に機運を高めるようなことを大阪でやっていただくと大阪の活性化につながると思う。
- 万博で活躍できるスタートアップを産業分野とかクラスターとか産業的な括りができるとスタートアップも集まりやすいと思う。
- 大阪が元気になれば関西全体が元気になっていく。そういう意味で、O I Hという場所で大阪市がどういう形で関西全体を取りまとめるのかということはすごく重要であり、改めて関西全体が理解を共有化できると良い。